No.（　　４６　　）令和３年度　地域と共働した博物館創造活動支援事業成果報告書

<table>
<tr><td>事業名称</td><td colspan="4">寛容で包摂的な社会の実現にむけた人権尊重意識普及事業</td></tr>
<tr><td>実行委員会</td><td colspan="4">人権ネットを活用した地域活性化事業実行委員会</td></tr>
<tr><td rowspan="4">中 核 館</td><td colspan="4">水平社博物館</td></tr>
<tr><td>住所</td><td colspan="3">〒639－2244　奈良県御所市柏原 235－2</td></tr>
<tr><td>TEL</td><td>0745－62－5588</td><td>FAX</td><td>0745－64－2288</td></tr>
<tr><td>ホームページ</td><td colspan="3">http://www1.mahoroba.ne.jp/~suihei/</td></tr>
<tr><td>構成団体</td><td colspan="4">公益財団法人奈良人権文化財団、おおくぼまちづくり館保存事業運営委員会、
奈良県立同和問題関係史料センター、一般財団法人奈良人権部落解放研究所、御所市
ＮＰＯほっとねっと、公益財団法人大阪人権博物館、人権資料・展示全国ネットワーク</td></tr>
<tr><td>事業開始時点の課題分析</td><td colspan="4">新型コロナ感染症の拡大は、差別や偏見の問題を浮き彫りにした。世界では FIHRM（国際人権博物館連盟）が結成され、さらに ICOM では、「人間の尊厳と社会正義、世界全体の平等と地球全体の幸福に寄与することを目的」とするなどとした博物館定義の改正が協議中である。人間の尊厳と平等を求めて 1922 年に創立された水平社の理念の普及が、SDGs や ICOM の博物館定義の実現の一助となることは疑いない。</td></tr>
<tr><td>事業目的</td><td colspan="4">2022 年の水平社 100 周年を迎えるにあたり、「平和と公正をすべての人に」、「パートナーシップで目標を達成しよう」の SDG s 達成の一助となることを視野に、人間の尊厳と平等を求めた水平社創立の理念を広く普及し、差別のない包摂的で寛容な社会を構築することを目的に実施する。</td></tr>
<tr><td>事業概要</td><td colspan="4">２０２１年度から２０２３年度までを人権博物館による社会包摂推進事業と位置づけ、ウイズコロナ時代に対応した事業を以下のような３年計画で完成する。
◇２０２１年度
水平社創立１００周年に向け、その理念を普及するための手法を検討する。
FIHRM－AP（国際人権博物館アジアパシフィック支部）との国際交流に着手する。
◇２０２２年度
水平社創立１００周年にあたり、その理念の普及と情報発信を展開する。
FIHRM－AP（国際人権博物館アジアパシフィック支部）との共同事業を検討する。
◇２０２３年度
水平社創立１００周年事業を総括し、今後の展開を検討する。
FIHRM－AP（国際人権博物館アジアパシフィック支部）との共同事業を展開する。
２０２１年度は水平社１００周年記念事業の準備及び検討の年とし、以下の事業を展開する。
☆水平社創立理念の普及事業
学校教育と連携し、中核館である水平社博物館の見学と子どもたちを対象とした地域産業の体験講座を開催し、水平社創立の理念を普及する。また体験講座を動画として保存し、オンラインなどによる配信などの活用方法を検討する。
☆国際発信及び国際交流事業
FIHRM－AP（国際人権博物館アジアパシフィック支部）の事務局である台湾の国家人権博物館とオンラインでの交流を行い、人権博物館による社会包摂をアジア太平洋地域でも展開するための情報交換を行う。</td></tr>
</table>

実施項目 ・ 実施体系	１．水平社創立理念の普及事業 （１）ミュージアムパスポートの発行 ①検討会議　（検討会議 1-1） ②パスポートの発行　（パスポート） （２）人権学習とワークショップの実施 ①検討会議　（検討会議 1-2） ②施設見学　（博物館見学） ③講座の実施（レザークラフト）　（皮革体験講座） ④講座の実施（ミニ桐下駄キーホルダー）（桐下駄体験講座） （３）人権ワークショップの活用 ①検討会議　（検討会議 1-3） ②講座の動画保存（レザークラフト、ミニ下駄キーホルダー）（講座保存） ２．国際発信及び国際交流事業 （１）FIHRM-AP との交流及び人権情報交換 ①検討会議　（検討会議 2-1） ②FIHRM-AP との人権情報交換　（国際交流１）
実施後の 成果・効果等	水平社博物館は、日本で唯一 FIHRM（国際人権博物館連盟）加盟館として、人間の尊厳と平等を求めて創立された水平社の歴史を展示し、理念を伝え続けてきている。２０２２年、水平社創立１００周年を迎え、展示をリニューアルするにあたって、重視したことの一つに、「水平社創立の理念を子どもたちにもよりわかりやすく伝えられること」がある。これまで３年間、市内の児童、生徒を対象にミュージアムパスポートを配布し、自主的な来館を促進すると同時に、各学校と連携しながら博物館見学とワークショップを開催し、子どもたちの人権学習を深める取り組みを続けてきた。この活動で、小学生はミニ桐下駄づくりを通じて水平社発祥の地である柏原の地場産業である桐細工について学び、中学生は、レザークラフト体験を通じて皮革産業と部落問題の関わりについて学ぶ。子どもたちは「モノを作る」だけではなく、同時に背景にある歴史や社会の問題を知り、職人の仕事に対する誇りを知り、また自分たちが日々生き物の「いのち」をいただいて生活していることに思いを深めていく。実施後のアンケートでは、博物館の見学で今まで知らなかった人権の問題を知り、新たな気付きを見つけた子どもたちの感想が多く見られた。また、どの学校でも事前・事後学習と合わせて本事業の取り組みを人権学習の一つに位置付けてもらえていることが感じられた。今後も地域や教育現場と連携しながら人権尊重の意識を伝え、広めるための事業を展開していくことは、これからの社会を生きる若い世代の人権意識を高め、育ててくれる基礎になると確信する。 今年度は体験講座の様子やミニ桐下駄の作り方の動画を撮影して保存しており、編集したＤＶＤも作成した。来年度以降の取り組みとして、遠隔地へのオンライン講座配信や講座ＤＶＤの貸し出しなど、さらに広く水平社理念を普及させるためのツールとして活用していく。 国際発信及び国際交流事業では、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大の影響で、今年度も海外への訪問がかなわなかったが、FIHRM（国際人権博物館連盟）の活動への参加や、オンライン会議などには今後も参加し、世界的視野での包摂と寛容の社会構築に向けて積極的に活動を続けていく。

【事業実績】

１．水平社創立理念の普及事業

（１）ミュージアムパスポートの発行

水平社創立 100 年に合わせてリニューアルされた展示室は、人権について子どもたちにもわかりやすく伝わるものになっている。子どもたちの人権尊重の意識を高めるきっかけの場となることを願い、無料で見学できるミュージアムパスポート(2500 部)を作成し、御所市内の小学生(４年生以上)、中学生、高校生に配布した。また、来館の回数により記念品を贈呈している。

（２）人権学習とワークショップの実施

【ワークショップの様子】

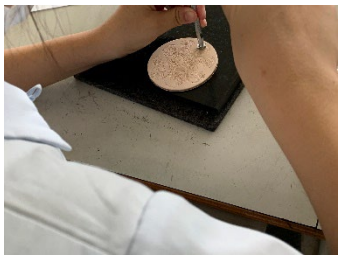
①＜中学生対象＞博物館見学とレザークラフト体験講座の実施

2021 年８月 26 日　青翔中学校３年生(生徒 74 人、教員６人)

2022 年３月　８日　葛中学校１年生(生徒 16 人、教員３人)

３月　９日　御所中学校３年生(生徒 71 人、教員９人)

３月 10 日　葛上中学校２年生(生徒 24 人、教員５人)



☆いま、なぜレザークラフトなのか？――皮革職人たちは、高度な技術で牛の皮を加工し、多くの人々の暮らしを支えてきた。革を得るためには牛のいのちを貰う必要があり、それゆえに職業差別や偏見の目にさらされてきた。革細工の体験を通して、食肉・皮革産業に携わる人々の思いを共有し、いのちを預かり、育て、いただき、生かすことの意味やかけがえのないいのちの大切さについての学習を深めたいという授業者の思いが、子どもたちにもしっかりと伝わった時間となった。

②＜小学校対象＞博物館見学とミニ桐下駄キーホルダー講座

2021 年 10 月 21 日実施　葛小学校６年生(生徒９人、教員３人)

10 月 26 日実施　大正小学校４年生(生徒 28 人、教員３人)

10 月 28 日実施　名柄小学校４年生(生徒８人、教員２人)

10 月 29 日実施　葛城小学校５年生(生徒 11 人、教員３人)

2022 年　３月 ４日実施　秋津小学校６年生(生徒７人、教員２人)

３月 ４日実施　御所小学校６年生(生徒 46 人、教員６人)

３月 15 日実施　掖上小学校５年生(生徒 16 人、教員３人)

☆地域の産業について知る。――水平社博物館のある御所市柏原では、膠づくりや桐下駄作りがさかんであった。ワークショップをするにあたって、地元の歴史や昔の暮らしについて考えた。さらに博物館を見学することでそれらの産業が地域の経済を支え、水平社運動を発展させていく土壌となっていくことの学習に繋げられた。ミニ下駄作り体験では材料一つ一つの産地や職人さんの仕事にも触れ、ミニチュアではあるが、本物と同じ物を作るのだというモチベーションを高めた。高学年に比べて中学年児童にはやや難しい作業もあるが、協力し合い、苦労してできあがった作品を大切にする気持ちに繋げることができた。

③人権ワークショップの活用として講座内容等の動画撮影と映像資料の作成を行った。

・８月　レザークラフト体験講座の動画撮影

・３月　ミニ下駄キーホルダーの作り方とミニ下駄作り体験講座の動画撮影

御所の桐産業について、竹川桐材店・竹川忠成さんへのインタビュー動画撮影

☆撮影済み動画はＤＶＤに編集し、今後のオンライン講座実施での活用を検討していく。

④ワークショップ体験校の生徒・教員を対象としたアンケートを実施した。アンケートの集約は、次年度事業の企画、立案に生かしていく。

【アンケートより――児童・生徒の感想】

◆ミニ桐下駄作り体験◆

・桐下駄を作るのは、難しかったがとても楽しかった。説明が分かりやすく、しっかり教えてもらえたので、いい下駄ができて嬉しい。大切にしていきたい。

・ミニ下駄を作ることで桐や下駄に興味を持った。桐についても学ぶことができてよかった。本物の下駄をはいてみたいし、いつか大きな下駄も作ってみたい。

◆レザークラフト体験◆

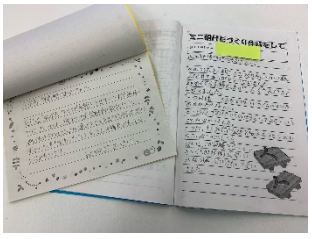
・自分でデザインを考え、革に刻印で模様や文字を打ち込む作業はとても新鮮で楽しかった。できあがった作品をほめあおうと言われ、ほめてもらえたことがうれしかった。

・この体験をするにあたって、私たちがいのちをいただくために、失われた命があることも知った。大切にしなければと思った。日々の暮らしの中で使う革製品や、肉を食べていることにも感謝。

◇博物館見学◇

・展示は当時の写真や映像などがたくさんあり、分かりやすかった。また、謎解きをしながら、楽しく水平社や人権、いろいろな差別について学べたのがよかった。

・自分の住んでいる地域の人たちが日本中に「水平な社会＝平等」を広げていったことを知ってすごいと思った。先人たちの知恵や努力が見え、私たちの学ぶべきところも見えた気がする。



【子どもたちからの感想】

【アンケートより――教職員の感想】

・事前レクチャーで作った桐下駄を見た子どもたちが「早く作りたい」と意気込んでいた。手先の器用でない子も、思い通りにいかないと落ち込む子も、丁寧なサポートのおかげで完成させることができて嬉しそうだった。

・桐や桐下駄について丁寧な説明や紹介、とてもわかりやすく、子どもたちにとって地域のことを知るよい機会になった。下駄作りもとても楽しんでいて、体験後も、「世界に一つだけの下駄」をずっと大切に持っている児童がいた。とても嬉しかったようだ。

・博物館見学とワークショップが一緒に体験できるのはとてもありがたい。なにより子どもたちが一番喜んでいた。このように人権学習ができるのは、学校や家庭での助けになる。これからも続けてほしい。

・博物館見学は、学校で学習したことを深めるのにとてもよかった。ワークショップ体験も、講師の先生が命の大切さについて話してくださったことも、生徒たちにとって有意義な時間になった。体験学習の機会が少なくなっている中、生徒が自身で見て体験できる貴重な機会であり、続けてほしい。

２．国際発信及び情報収集・国際交流のための各種事業の展開

①国際会議（FIHRM－AP）との交流及び人権情報交換

今年度は計画していた海外への訪問・交流が叶わなかったが、実行委員会のメンバーがFIHRM－AP（国際人権博物館連盟アジア太平洋支部）のオンラインでのミーティングやシンポジウムに参加した。（別添報告書）

アジア地域での人権博物館との国際交流・情報の収集や交換はグローバルな視点での人権意識を身につけるうえで、今後も大切にしていかなければならない。ここ数年の新型コロナウイルス感染症の世界的拡大により、海外訪問は未だ困難な状況にあるが、次年度以降の事業計画については、感染症に関する世界状況を考慮しつつ、どのように国際交流や情報の交換事業を展開していくかの検討が必要である。